

---

どらえもんシーケンス

未発表舞台用台本より

## どらえもんシーケンス

男(ナレーション) 私の街に、ある男がいる。いつの頃からか、雪深く貧しいこの街にその男は住み着き、そして暮らしている。この街のすべての人々は、その男の名前を知っていた。これはとても奇妙なことだ。どんなに貧しくとも、ここの村や部落ではない、歴とした街だ。少なくとも数千人の人々が、様々な暮らしを営んでいる。そして当然のことながら、その数千人は、お互いに知り合っているわけではない。あるものは農業を営み、あるものは工場を経営し、あるものは学校で学び、またあるものは学校で教える。あるものは専業主婦としてカルチャースクールに通い、あるものは企業を経営し、あるものは廃品を回収し、またあるものは政治に携わる。犯罪を生業とするもの、犯罪を摘出しあるいはまたそれを裁くことを職とするもの、ベッドの上で闘病生活を送るもの、それを看取することで生活を成り立たせているもの、他の「街」と名のつく場所と同じように、この街でも、ありとあらゆる人々が息づき、働き、そして眠る。唯一、この街が、他の場所と違うところ、それはまぎれもなく、この街の人々が、あの男の名を知っているということだ。その男。彼の名はどらえもん。

男(どらえもん) 登場。  
女の子登場。

女の子 どらえもうん。

男(どらえもん) や。エリナちゃん。どうしたんだい、そんなにあわてて。

女の子 聞いてよどらえもうん。あたしママからお使い頼まれたのに、途中で犬に追いかけられてえ…

男(どらえもん) お金を落としちゃったんだらう。

女の子 そうなの。気がついたらお財布がないのよ。でね、走ったところを探しながら戻ったら…

男(どらえもん) さっきの犬がエリナちゃんの財布をくわえてゆうゆうと歩いてたんだね。

女の子 そうなのお。とつてもこわい顔した野良犬で、お財布取り返したくても近寄れないの。

男(どらえもん) ふうん。そうか。

女の子 ねえどらえもん、なんとかしてよう。

男(どらえもん) エリナちゃん、財布にはいくら入ってたんだい？

女の子 ええとねえ、お母さんからあずかった千円札一枚はいつてるの。

男(どらえもん) そうか、わかった。じゃあ、いいものを出してあげるよ。

男(どらえもん)、ポケットから取り出しながら

男(どらえもん) せんえんさつー。

女の子 わあー。

男(どらえもん) ほら、エリナちゃん、これあげるから。これでお使いにいけるだろ？

女の子 うん…。ありがとう。

男(どらえもん) どうしたんだい、エリナちゃん、あんまりうれしそうじゃないね。  
女の子 あかね…、あのお財布ね…

男(どらえもん) ああ、犬がくわえていっちゃった財布だね。

女の子 あれね、とてもお気に入りのお財布だったの。

男(どらえもん) ああ、そうなんだ。エリナちゃん、おこづかい一生懸命ためて、自分で買ったんだね。

女の子 そうなの。

男(どらえもん) わかった、ちよつと待ってな。お安いご用さ。

男(どらえもん) 再びポケットを探る

男(どらえもん) せんえんさつー。

女の子 わあー。

男(どらえもん) これでお財布もう一つ買えるだろう？

小ども うん！ そうだね！ ありがとうどらえもん！

男(どらえもん) 気をつけて帰るんだよ。

女の子 うん！ ばいばーい！

男(どらえもん) 見送る。

男(どらえもん) 登場。

男(どらえもん) どうも。

男(どらえもん) なんとかしてよう。

男(どらえもん) ええと、君はたしか…誰だっけ？

男(どらえもん) 忘れちゃったのかよう。オレだよ。西伎雲町3丁目の片山だよ。

男(どらえもん) ああ失敬。片山久治君だったね。お久しぶり。その後どうだい。

男(どらえもん) それがよう、今度勤めてた工場がよう…

男(どらえもん) ああ、久治君、泣かないかない

男(どらえもん) うん、すまねえ。…今度こそよう、まじめにやっついていこう、まともな

生活しよう、そう思ってたんだよ、本気だったんだよ、そんでよう、かあちゃ

ん呼び戻してよう、子供と3人で落ちついた暮らしをしようと、オレ思ってた

んだよ。

男(どらえもん) そうかそうか。えらいじゃないか。

男(どらえもん) それがよう、こないだボーナス時、工場の金庫から金がなくなつて

よう、オリヤあそりやあ前科もんだからよう、疑われてしようがねえのかもしれない

んねえけどよう、でもよう…

男(どらえもん) わかったわかった、ちよつと待ってな。

男(どらえもん) ポケットを探る

男(どらえもん) 800まんえんー。

男(どらえもん) わあー。

男(どらえもん)、男(どらえもん)に札束を渡す

男(どらえもん) これをこっそり金庫に返せば疑われないだろう？

労務者風の男 ああ！ そうだな！ やっぱりアンタ頼りになるなあ！

男(どらえもん) よろこんでもらえてうれしいよ。

労務者風の男 ありがとうよ！ どらえもん！

男(どらえもん) 気をつけてな。

労務者風の男、退場。  
人妻風の女、登場。

人妻 どらえもうん。なんとかしてよう。

男(どらえもん) ん。君は…

人妻 あたしよ。刈庫祖町2丁目の村田令子よ。

男(どらえもん) ああ、村田さんの奥さんか。元気でやってるかい。

人妻 それがねえ、大変なよう。

男(どらえもん) 浮気でも見つかったのかい。

人妻 やあね、どらえもんたら相変わらず鋭いんだからあ。でも今はね、浮気なんてコトバ流行らないの、今はふ・り・ん、ていうのよ。

男(どらえもん) ああ、不倫ね。で、相手は？

人妻 それが…

男(どらえもん) どうしたの？

人妻 あたしがバカだったのよ。あのひとは弁護士なんかじゃなかったの。あたしは騙されたのよ！ くやしいー！

男(どらえもん) まあ落ちついて。…ヤクザだったんだね。

人妻 そうなのよう！ それであの人、いつの間にかあたしとのベッドシーンまでビデオに撮ってて、ダンナにバラされたくなかったら1千万払えっていうのよお！

男(どらえもん) みなまで聞かず、ポケットを探る。

男(どらえもん) いっせんまんえんー。

人妻 わあー。

男(どらえもん) これで払いなよ。あんまり、無茶しちゃだめだよ。

人妻 わかっているわよ、ありがとう、どらえもん！ さみしかったらいつでも言っ  
ねえん！

男(どらえもん) …さみしい時なんてないさ。

人妻 うふふ、強がり言っつてえ。あらこんな時間。あたし待ち合わせに遅れちゃう。  
じゃあいくわね。

男(どらえもん) 気をつけて。

人妻、腰を振り振り退場。

実業家風の壮年の男、登場。

実業家 どらえもうん。

男(どらえもん) あれ、君はたしか加悦茉莉化学工業ケミカル・インダストリー株式会社の原常夫会長じゃない。元氣なさそうだね。どうしたんだい。

実業家 ワシんとこのコンビナートで出してる工場廃液が、公害の原因だちゅうて、  
ずっと裁判であらそつとるの、知つとる？

男(どらえもん) ああ、新聞で読んだよ。500人も全身麻痺で寝たきりになつて  
るんだって？

実業家 そうなんよ。ワシもね、そりゃあワシんとこの会社のセイだつちゅうのは重々  
承知しとるんよ。でも そんなこと言えんでしょうがね。で、延々裁判ちゅう  
わけよ。ほんでもね、もうあかんねん。負けそうなんよ。

男(どらえもん) それも新聞で読んだ。

実業家 負けるわ、ワシ。もう負ける。もう進退極まったわ。どらえもうん。なんと  
かしてよう。

男(どらえもん)、ポケットを探る。

男(どらえもん) 20おくえんー。

実業家 わあー。

男(どらえもん) せめてこれで、賠償金はらいなよ。

実業家 どらえもうん、ワシ、ワシ、なんちゅうたらええか…

男(どらえもん) いいよいいよ。

実業家 ありがとありがと。ワシ、この恩は一生忘れんけん。

男(どらえもん) いいよ、忘れて。

実業家 それじゃあ、ワシいくけん。

男(どらえもん) 仕事、がんばんなよ。

実業家風の男、何度も何度も頭を下げながら退場。  
やせた外人、登場。

外人 ドーラエモンサーン。

男(どらえもん) …なんだおまえは。

外人 ワタシ、ナヤマアリマース。デモ、ソノナヤミ、ヒトニイエマセーン。

男(どらえもん) はあ？

外人 オーウ、ワタシ、ナヤミクルシミーデハリサケムケソウデース。

男(どらえもん) なんだかわからないぞ。それにしても、なんだ、よくみたら、北  
典能生針鞍本町に住んでる、北典能生大学講師のスラバリ・ドアラブルスコフ  
さんじゃないか。

外人 ソノトオリデース。ワタシコノクニニ、キカシマーシタ。コノクニ、トーテモ  
ヨイトコー。サケハウマイシ、ネエチャンキレイイ。デモ、ワタシ、コノセイ  
カツニ、アマンジテハイラレナイ、フカイフカイイ、ジジョアリマース。

男(どらえもん) よかったら話してごらんよ。人に話すだけでも気持ちが悪くなる  
かも知れないし。

外人 オーウ、ソウイテモラエテ、トテモウレシイデース。デモダメネ。ワタシ、コ  
レ、シャベツテシマタラ、タイホサレテシマウ。

男(どらえもん) じゃあ、当てるあげよう。実は君は大学の外国語教師とは世を忍  
ぶ飯の姿で、本当は隣国の軍隊の諜報部員なんだろう？ 君の国は経済的に苦  
しいし、どうにか口実を作って日本に戦争を仕掛けたい。君はそのために派遣  
された諜報員なんだ。

外人 オーウ…

男(どらえもん) なんちゃってね。冗談、冗談だよ。そんな顔するなよ。

外人 ヤハリ、ウワサ、ホントダツタ。ドローエモンサン、アナタナニモカモ、オミトーシデース！

男(どらえもん) ええ？

外人 ソノトリー、ワタシ、チヨホブインネ。10ネンマエ、コノクニ、ハケンサレテカラ、キヨウマデ、ジヨホーシユシユエカツドウ、イソシンデキマシータ。

男(どらえもん) 冗談だったのにな。

外人 シカーシ、シカーシデス、ワタシノクニ、ホーカイシテシマイマーシタ。センソー、トンデモアリマセン。ケーザイ、ハタンシテマース。ワタシ、ソコクノキキヲメノマエニシテ、テヲコマネイテイ、トテモクルシイネ。クルシイトイエバ、コンナ、カタカナバカリノダイホン、トテモトテモ、ヨミニクイー。ヤルホーノミニ、ナテモミテクダサーイ。

男(どらえもん) 言ってることがよくわからないけど、まあいいや。

外人 ソコクノドーホータチ、クルシイセイカツ、ワタシ、ミスゴスワケニハ、イカナイノデース。

男(どらえもん) そうかそうか。

外人 オーウ。ドローエモンサン。ナントカ、ワタシノ、ハハナルソコク、スクテクダサーイ。

男(どらえもん) わかったよ。ほかならぬドアラブルスコフさんのためだ。

男(どらえもん)、ポケットを探る。

男(どらえもん) 9ちょう5せんおくえん！

外人 ワアーオウ。

男(どらえもん) ほら、これで諸外国から借金してる分を少しでも返して、景氣刺激対策の足しにしなよ。

外人 オーウ。グレイイト。アンビリーバブル。

男(どらえもん) いいっていいって。

外人 ドローエモンサン。アナタハ、ゴッドノヨーナヒトダー。

男(どらえもん) おおげさだなあ。

外人 コレデワタシ、ムネハッテソコクノツチヲ、フムコトデキマース。アリガトゴザイマーシタ。

男(どらえもん) よかったね。

外人 ソレデハ、ドローエモンサン、コレデシツレイシマース。サヨナラー。

男(どらえもん) さよなら、ドアラブルスコフさん。ふるさとのひとたちによろしく。

外人 ハーイ。サヨナラ、サヨナラー。

外人、手を振りながら退場。

野良猫、登場。(演出註：猫は本物が望ましい)

男(どらえもん)の足元にすりよる。

野良猫 にゃー。

男(どらえもん) …よう。どうした、兄弟。

野良猫 にゃーおう。

男(どらえもん) どっからきたんだ？

野良猫 にゃーおう。

野良猫は、腹を空かせているらしく、しきりに鳴くが、男(どらえもん)には猫の言葉はわからない。

男(どらえもん) このあたりは、あまり暮らしやすいとは言えないぜ。

野良猫 にゃーおう。

男(どらえもん) ま、それでも贅沢さえいわなきゃなんとかやっていけるさ。

野良猫 …。

野良猫、エサ欲しさに、男(どらえもん)の臭いを嗅いでいる

男(どらえもん) このあたりに住みつくのか？

野良猫 …。

男(どらえもん) なんなら、俺が口きいてやろうか？ おまえ、けっこうルックスいいし、飼ってくれるところが、あるかもしれない。

野良猫 …。

野良猫、男(どらえもん)がエサをくれないので、興味を失いかけている

男(どらえもん) なあ、そうしろよ。そしたら俺も仲間ができるし、同じネコ同士、

助け合いながらやっていけるさ。楽しいぞ、きっと。

野良猫 …。

男(どらえもん) そう思わないか？

野良猫 …。

男(どらえもん) なあ、おまえ、名前なんていうんだ。

野良猫 …。

男(どらえもん) なんとかいえよ、なあ。

野良猫 にゃー。

男(どらえもん) …。

男(どらえもん)、ポケットを探る。

男(どらえもん) 100まんえん！

野良猫 …。

男(どらえもん) …。

野良猫 にゃー。

野良猫、ふんふんと札束を嗅ぎ、そっぽをむく。

男(どらえもん) …。これでカルカンでもモンプチでも、好きなもの買えよ。

野良猫 にゃー。

男(どらえもん) 遠慮なんかしなくていいんだぜ。兄弟。

野良猫、何かの臭いを嗅ぎつけたらしく、スタスタと去っていく。

男(どらえもん) おーい。どこいくんだ？…おーい！

野良猫、退場。

男(どらえもん)、札束を手に、立ち尽くしている。

女の子 …。どらえもん？

男(どらえもん)、びくつとして振り向く。

先刻の女の子が立っている。

男(どらえもん) ああ、なんだ、エリナちゃん。

女の子 どうしたの？

男(どらえもん) 別にどうもしないよ。エリナちゃんこそ、どうしたんだい。しょんぼりして。

女の子 あのね…。

男(どらえもん) わかった。財布を買いにいったら店が閉まってたんだね。大丈夫、明日またいけばいいんだよ。

女の子 …。

女の子、黙って首を横に振る。

男(どらえもん) ああ、わかった、もう売り切れだったんだ。しかも、もうその財布は在庫がなくなって、メーカーでも生産中止になっていますってお店の人に言われちゃったんだろう。大丈夫だよ。

男(どらえもん)、手に持っている札束を差し出し

男(どらえもん) ほら、これで新聞広告を出して、その財布を持っている人を探して譲ってもらいなよ。新聞広告に半分使ったって、残りの半方を謝礼にすれば絶対譲ってくれるよ。

女の子 (首を振る)…ちがうの。

男(どらえもん) じゃあ、わかった、ぼくがエリナちゃんにお金をあげたから、お母さんに怒られちゃったんだね。大丈夫、これをお母さんに渡してごらん。それでもダメならばくがお母さんに会って…

女の子 あのね、どらえもん。

男(どらえもん) うん。

女の子 あのおサイフにね…お父さんからもらった押し花が入ってたの。

男(どらえもん) 押し花？

女の子 それね、ずっと前お父さんといっしょに遊園地に行ったときにね、いっしょに摘んで、お父さんに作ってもらった押し花なの。

男(どらえもん) ああ。

女の子 だからね…あのね…

男(どらえもん) わかった。お父さんにこれを渡して、一日だけ会社を休んでもらって、それで

女の子 どらえもん。エリナのお父さんね、エリナが小学校に入る前に、病気で死んじゃったの。

男(どらえもん) …。  
 女の子 だからね、だから…。  
 男(どらえもん) わかった、ちょっと待ってな。

男(どらえもん)、ポケットを探る。

男(どらえもん) 5千まんえんー。  
 女の子 どらえもん、あのね、そうじゃないの。  
 男(どらえもん) なんだ、違うのか。わかったわかった。ちょっと待ってな…

男(どらえもん)、再びポケットを探す

男(どらえもん) 2おくはっせんまんえんー。  
 女の子 どらえもん、きいて、違うのよ。そうじゃないの。  
 男(どらえもん) わかったわかった、冗談だよ、ちゃんと出すから。

男(どらえもん)、ポケットから次々と。

男(どらえもん) 3 2おく2せん9ひやくまんえんー。  
 女の子 …。

男(どらえもん) 6 おく9せん8ひやく3じゅう2まんえんー。…4せんひやく5  
 じゅうえんー。…522まん9せんとんで9ひやく7じゅうえんー。1えんー。  
 5ひやくえんー。1おくとんでとんでとんで10まんえんー。25えんー…  
 女の子 どらえもん、どらえもんったら！ もうやめて！ わかったから！ おねが  
 い、どらえもん！

男(どらえもん) …。

男(どらえもん)、散乱する札束に埋もれて、肩で息をし、茫然自失状態に陥って  
 いる。

女の子 (やさしく)…落ちついて、どらえもん。

男(どらえもん) …ああ。

女の子 だいじょうぶ？

男(どらえもん) …ああ。…すまない。

女の子 ううん、いいの。

男(どらえもん) それで…つまり…エリナちゃんのいいたいことは、なんなんだい。

女の子 だからね、どらえもん。その押し花はね、お金では買えないの。

男(どらえもん) …。

男(どらえもん)、蒼白な顔で聞いている。

男(どらえもん) お金で、買えない？

女の子 そうよ。当たり前でしょ？

男(どらえもん) 当たり前…？

女の子 ええ、当たり前。

夕暮れのどこかで微かに鶉が啼く。

男(どらえもん) そんな…そんな馬鹿な…！ そんな馬鹿なことがあるか！ ふざ

けるな！ みんな満足してるじゃないか！ みんな、みんな最後には俺んところへ来て、俺がポケットから出してやったものを受け取って帰っていくじゃないか！ おれはそれがうれしくて、みんなの役に立ちたくて、ただそれだけで、こうやってここにいるんじゃないか！ それだけじゃないか！

女の子 どらえもん、落ちついて！

男(どらえもん) なんてそんな目でみる？ ただそれだけなのに、なんで俺をそんな目でみる？ あわれんでいるのか…おれを…おれをあわれな男だと思ってるのか！？ どうしてだ！ どうしてだよ！

男(どらえもん)、泣きながら叫んでいる。

女の子 どらえもん！ お願いだから！ そんなに怒鳴っちゃだめ！ 大きな声を出

しちゃだめよ！

男(どらえもん) ああああああああああああああ！

男(どらえもん)、狂ったように、そこら中をころげまわる。

女の子 どらえもんったら！ やめて！ やめなさい！

男(どらえもん)、制止を聞かずに暴れ続け、やがて疲れ果てたように、その場にうずくまる。

男(どらえもん) ううう…。

女の子 どらえもん…。聞いて。

男(どらえもん) …。

男(どらえもん)、答えずにすすり泣いているが、その目は一滴の涙も分泌することができない。

女の子 これはね、みんな知ってることなの。たとえばエリナのおサイフに入ってた

押し花や、それから、元気でいたころのエリナのパパ、エリナもちよつとしか憶えてないけど、あのとき、遊園地でピエロが吹いていた笛の音、それから風の涼しさや、頭のとっぺんで感じた太陽や、そんなもの、エリナの頭の中にあるそういうことはみんな、お金では買えないの。これはね、みんな、どらえもんのところに来る人も、来ない人も、みんな知ってることなの。わかる？

男(どらえもん) …。

女の子 だからね、だから…。

男(どらえもん) だから…？

女の子 だからもういいの。もうそのポケットからは、なにも出さなくていいのよ。

男(どらえもん) …。

女の子 わかってくれた？ どらえもん。

男(どらえもん) …ああ。

女の子 ほんと？

男(どらえもん) 何となく…ね。

女の子 うれしい。やっぱりどらえもんはどらえもんね。

男(どらえもん) ……

女の子、どらえもんの手を取ってはしゃぐ。  
男(どらえもん)、無表情になすがままになっている。

女の子 ねえ、どらえもん、じゃあ、あたしのお願ひ聞いてくれる？

男(どらえもん)、お願ひと聞いてびくつとする。

男(どらえもん) お願ひ？

女の子 そう、お願ひ。

男(どらえもん) ……ああ、だけど、もう…

女の子 あのね、どらえもんのひまな時でいいから、エリナと遊園地にいこう？

男(どらえもん) 遊園地？

女の子 うん。パパに連れてってもらった遊園地。

男(どらえもん) おれが連れていくのかい？ 君を？

女の子 そうよ。ダメ？ いそがしい？

男(どらえもん) いそがしくないよ…。そう、もう、いそがしくなんか、ないさ。

女の子 やった！ よかった！ でねでね、あのね、どらえもんとね、お花を摘んで、

そんで押し花作るんだ！

男(どらえもん) ああ、なるほど…。

女の子 そしたらね、エリナはそれでいいんだ。お金なんかなくても、本当は最初っ

からそうして欲しかったんだあ。

男(どらえもん) 最初から…

女の子 そう。ごめんね。どらえもん。だって恥ずかしかったんだもん。

男(どらえもん) ああ…そうなのか…、最初から、そうだったのか。

女の子 どらえもん？ どうしたの？ 怒ったの？

男(どらえもん) え？ どうして？ 何も怒ることなんかないさ…。そう、なにも

ね、怒ることなんてひとつも ないさ。

女の子 じゃあ、今度の日曜日ね？ いい？

男(どらえもん) いいとも。今度の日曜…。

女の子 約束だよ。

男(どらえもん) ああ、約束だ。

女の子、男(どらえもん)と指切りする。

女の子 じゃあ、あたし、いくね…。

男(どらえもん) じゃあ。

女の子、去りかけ、振り返る

女の子 どらえもん。

男(どらえもん) ……ん。

女の子 あたし、どらえもんのこと、だいすきだよ！

女の子、退場。

男（どらえもん）、立ち尽くす。  
陽光は男のシルエットを残してゆっくと暮れてゆく。  
暗転。

【付記】

本稿は1993年に新宿ピプランシアターにて上演された『バイバイ・ブラックバード』用台本の一部として書かれ、舞台化に難ありとの理由で没となつたいくつかのシーケンスのうちの一編である。この後、どらえもんは遊園地の観覧車内で少女を絞殺するに至る。